

平成 28 年度 麻生養護学校 学校評価

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月21日実施)	総合評価(3月21日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	「豊かに生きる力」を育み、自立と社会参加を目指し、キャリア教育の視点を持った、系統性、連続性のある教育課程を再構築する。	① 校内研究(授業計画・授業実践)を通して、カリキュラムの見直しを図る。	① 授業のユニバーサルデザイン化の視点で校内研究を推進する。  ② 教育内容系列表を活用しながら、授業内容を新書式に整理する。	① 授業のユニバーサルデザイン化の視点を授業研究で共有できたか。  ② 学部をつなげる系統性について見直しをしたか。	① 教員アンケート B以上89% 各学部で研究対象教科を決め、実態別グループや縦割りグループを編成して授業研究を進めた。公開授業研究会で研究の成果を冊子にまとめるとともにポスター発表で取り組み状況を報告した。  ② 発達段階に応じた教科ごとの指導目標を系統的にまとめ「麻生の教育課程(試案)」を作成した。小中高の系統性・連続性の視点から、主に校外行事の目的・行き先・活動内容を見直し、学部間で調整を行った。	① 他学年や他学部の研究成果を参考にユニバーサルデザイン化を推進し、より一層の授業改善を図る。授業の系統性という観点からもサポートプログラム等を活用し、授業を見る機会を確保する。  ② 次年度「麻生の教育課程(試案)」を基準に授業の年間指導計画作成を試行し、より使いやすいうものに改良する。	① 保護者アンケート 教職員は指導法や教材を工夫したわかりやすい授業を行っている B 以上(前年比+3%) <学校評議員> 一人ひとりの合理的配慮が集まるとユニバーサルデザイン化された授業になることが実感できた。  ② 保護者アンケート 前年度からの引継ぎなど指導の継続が図られているか B 以上 83%であるが、学部間の引継ぎ・指導の継続をしてほしい。	① 授業のユニバーサルデザイン化の視点で各学部において対象教科を決めて授業研究を進めた。夏季休業中に校内中間報告会を行い、各学部の研究について共有を図った。今後も学部間の繋がりを共通理解することが課題である。  ② 発達段階に応じた教科ごとの指導目標を系統的にまとめ「麻生の教育課程(試案)」を作成した。小中高の系統性・連続性の視点から、校外行事の目的・行き先・活動内容を見直し、学部間で調整を行った。学部間の丁寧な引継ぎが課題となる。	① 来年度は研究第4期の3年目最終年になるので、日課表の標準化に取り組むなど授業のユニバーサルデザイン化の視点でいっそうの授業改善を図る。  ② 「麻生の教育課程(試案)」を基準に授業の年間指導計画を作成する。引き続き、校外行事を、小中高の系統性・連続性の視点で見直し実施する。肢体不自由教育部門については他校の実施状況を参考にする。学部間の引継ぎを丁寧に行うための期間や実施方法を工夫する。
2 児童・生徒指導・支援	個々のニーズに応じた合理的配慮の視点を持った指導・支援を推進する。	① 個別教育計画の作成・評価の組織的な取り組みについて再検討する。	① 個別教育計画について、マニュアルと事例集の活用研修を実施する。  ② 児童生徒支援会議を個別教育計画に反映させる。	① わかりやすい研修であったか。職員の評価B以上80%以上。  ② 児童生徒支援会議の内容が明記してあるか。	① 教員アンケート B以上75% マニュアルと事例集の活用研修を年度当初に実施した。参加者からは80%以上の評価があった。  ② ケース会や児童生徒支援会議で指導・支援の方向性を確認し、必要に応じて外部機関と連携を進めたが、全ての児童生徒の個別教育計画に反映するまでには至らなかった。	① より多くの教員が参加するよう、ポスターなどで研修内容を事前にPRする。学部・学年単位など小集団の研修を実施する。  ② 実態が変化や、目標達成が困難と判断したときは早めにケース会を行い、目標の見直しや手立ての再検討を行う。また、継続してケース会を行い、継続的な指導を積み重ねる。	② 保護者アンケート 個別教育計画において児童生徒の実態を把握し、適切で具体的な目標・手立てが設定されているか A 評価(前年比+5%)	① 個別教育計画についてのマニュアルと事例集活用研修を、主に新転任者に実施し、作成に役立てた。個別教育計画に基づいた指導を行うために、次年度以降も継続し、研修の実施の方法を工夫する。  ② ケース会や児童生徒支援会議での指導・支援の方向性を個別教育計画に全ての児童生徒ではないが反映させた。今後は必要に応じてケース会を行い、継続的な支援を行う。	① 個別教育計画作成にむけて、マニュアルや事例集を活用しながら、アセスメントの仕方、重点課題や手立ての設定などを具体的に学ぶ研修を行う。  ② 児童生徒支援会議で児童生徒の支援体制を検討する。ケース会では児童生徒の指導・支援の方向性を確認し、必要に応じて個別教育計画に反映させる。

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月21日実施)	総合評価(3月21日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	一人ひとりのライフステージに応じた進路指導・支援の充実を図る。	① 「麻生のキャリア教育」に基づき、生活年齢に応じた進路学習など学習内容を見直す。	① 「麻生のキャリア教育」を基に、学部ごとに進路学習を見直す。	① 学部研究においてキャリア教育の視点を持って、授業内容を整理できたか。	① 教員アンケート B以上83% カリキュラム開発係で、系統性・連続性をふまえたキャリア教育の視点から授業ごとの年間指導計画を見直している。	① 授業をキャリア教育の視点で整理し、進路学習をどの教科・領域で取り扱うかを検討し、授業の年間指導計画に明確に位置づける。	① 保護者アンケート 将来の生活を見通した適切な指導がされているか B以上85%	① キャリア教育の視点で授業ごとの年間指導計画を見直した。進路指導をどの領域で扱うか、学部をつなぐ系統性が課題である。	① 進路学習をどの教科・領域で扱うかを年間指導計画に明記し、学年間の系統性を確認する。小中学部での進路指導について共通認識を持ち、指導計画に盛り込む。
4	地域等との協働	「インクルージョンを目指す学校」として、インクルーシブ教育推進のために地域のセンター的機能の充実を図る。	① インクルーシブ教育に係る研修・相談の充実を図る ② ホームページ等による情報発信の充実を図る。	① 地域のセンター的機能としての公開研修、相談についてアンケートを実施し、ニーズと評価をはかり、次年度の事業に活かす。 ② ホームページの見直しを図り、積極的な情報発信を行う。	① アンケート結果から研修ニーズ、相談傾向の把握ができたか。評価B以上80パーセント。 ② 教育活動や地域のセンター的機能についてわかりやすいホームページを作成し、定期的な更新ができたか。	① 訪問相談先に学校相談アンケートを実施した。9/20回収し、全てA評価。アンケートにより相談先のニーズを参考にした。保護者学習会3回 サタデーセミナー3回 公開研修会延べ325人参加。アンケート全ての講座でA評価80%以上 ② 教員アンケート B以上43% 各学部の活動の様子を新しいホームページで紹介できるように準備を進めた。新年度から運用予定。	① 訪問相談先や関係機関との連携を今後も丁寧に取り組む。研修会参加者のアンケート等からニーズを把握し、次年度の事業を計画する。 ② 製作に時間をかけ周知が遅れた。次年度以降、定期的に更新するとともに、見る人の視点で必要な情報が盛り込まれているか検証を重ねる。	① 保護者アンケート SHIPの教育相談は充実しているかB以上(前年比-3%) 大部分の人は満足と評価しているが、一部の方が困っている事を抱え込まないように相談できる体制づくりを考えてほしい。 ② 保護者アンケート B以上59% ＜学校評議員＞ 施設でも情報発信を積極的にしていくことが地域貢献につながる。	① 訪問相談では概ね良好の評価を得た。保護者学習会等も良好の評価を得た。今後は研修のニーズを把握し次年度の計画に反映させる。 ② ホームページ更新に向け取り組んだ。新年度から実施する。見る人の視点で必要な情報の検証をする。	① 訪問相談先や関係機関の連携を丁寧に取り組む。研修等のニーズを探ると共に、開催を広く周知する。 ② ホームページの在り方を工夫し、必要な情報を適時発信する。
5	学校管理 学校運営	安全で児童生徒にわかりやすい教育環境整備に取り組む。 防災教育の実施、災害時の危機管理について整備し教職員全員で動ける体制を作る。	① 課題改善プロジェクトとして、環境整備の視点を整理する。 ② 教員の防災に関する意識を高め、組織体制を構築する。	① 研究推進係、環境整備係、課題改善プロジェクトの連携・協働によりユニバーサルデザインの視点で環境整備を見直す。 ② 災害時の避難から保護者引渡しまでの緊急時シミュレーションを実施する。	① 各取り組みの評価に、環境整備の視点が加わり成果が見られたか。 ② 災害時を想定した職員の動きを確認し、防災マニュアルに反映できたか。	① 教員アンケート B以上91% 視覚支援の工夫、机の配置やロッカーの目隠しなどユニバーサルデザイン化の視点から学習環境整備に取り組んだ。 ② 教員アンケート B以上98% 毎年更新している防災マニュアルを基に、災害時を想定した、緊急時シミュレーションを実施し、職員の動きを確認できた。地域の防災訓練に参加した	① 研修により、ユニバーサルデザインや環境整備について、共通理解を図り定着させる。教室内環境整備について共有した考え方を踏まえ、多方面からのアドバイスを参考に、さらに工夫を重ねる。 ② 防災マニュアルの更なる周知と、教職員の動きを再確認し、防災マニュアルの更新を行う。	① 保護者アンケート 整理整頓された教室環境を整えているか A評価(前年比+6%) ② 保護者アンケート 災害時の安全対策は適切に行われているか A評価(+17%) ＜学校評議員＞ 日中、災害があった場合、地域で動けるのは女性と老人である。地域との繋がりを、スポーツ交流などで強めると良い。児童生徒の安全を第一に考え、同時に二次避難所が開設する前に地域の方が避難して来るかもしれないので、想定しておく。また放課後支援事業所と連携が必要。	① 課題改善プロジェクト(Aプロ28)を中心にユニバーサルデザイン化の視点から学習環境整備に取り組み一定の成果をあげた。まだ環境整備ができていない所があるので浸透を図る。 ② 緊急時シミュレーションを実施し、職員の動きを確認できた。地域の防災訓練に参加した。今後は避難所の開設に対しての職員の動きと、災害時の地域との更なる連携が必要。	① ユニバーサルデザイン化や環境整備について職員への共通理解と継続を図るための研修を実施する。 ② 緊急時シミュレーションを継続して実施し、防災用品の取り扱いを理解する。より多くの職員が参加できる態勢を工夫する。地域の防災訓練への参加と、防災以外での地域との連携を図る。